

第5章 地域貢献・情報発信及び管理・運営

第1節 地域貢献・情報発信

1. 現状の説明

(1) 公開講座及び一日体験入学

本研究科及び本学部の研究成果を広く社会に還元する地域貢献の方法は、本来多様であり、すでに述べてきたように、21世紀科学プロジェクト群の活動のいくつかは、社会貢献の意義をもったものも少なくない。また本学の教員・職員が一市民として行っている活動もある。その意味で本章において点検・評価した公開講座と一日体験入学は、本研究科及び本学部の地域貢献の一部であることを最初に断っておきたい。

公開講座のテーマは、広く市民の関心を呼ぶように工夫しており、平成27年度は『ヒロシマ』の訴える平和～被爆70年をふりかえって～、日本美学と芸術、スポーツを通じた健康学セミナー、文化交流論、平成28年度は「水・地域・サステナビリティ」、自然災害のリスクの実態と防災・減災に向けた対応、日本美学と芸術、芸術と老年 Arts and Aging、平成29年度は「誰かに話したくなるこころを軽くする働きかた」、日本美学と芸術、芸術と老年 Arts and Agingであった。担当教員及び参加者数などは表5-1-1のとおりである。

また一日体験入学は、本学部を受験することを希望している高校生への広報活動という意味だけでなく、広く一般社会人にも門戸を開き、社会貢献のひとつとしての意味も持っている。その呼びかけ文には「あなたも、知的エネルギーの渦巻くこの学部独自の熱い雰囲気を経験してみませんか？」とあり、本学部のユニークさを理解してもらうことを第一の目的として平成7年度以来毎年実施しているものである。

一日体験入学の参加者は、平成27年度はまず全員が理系教員と文系教員各1名による「講義」を受講し、その後、3つの教育領域から各2名の教員が開講するセミナーのうち、参加者が1つのセミナーを選んで聴講する。平成28年度は全員が受講するものとしてパネルディスカッションを、平成29年度は特別セミナーを実施した。平成27～29年度の実施状況は表5-1-2のとおりである。

(2) 広報活動

広報・出版委員会は、平成27～29年度においても引き続き、本学部・本研究科所属教員の教育研究活動などに関する情報を、出版物、ホームページなどを通じて積極的に発信してきた。

出版物は、例年どおり、①研究成果及び学位取得者の要旨を掲載する年1回の研究科紀要(3分冊)、年1冊刊行の『叢書インテグラール』(表5-1-3)、②必要な改訂を施した学部案内『無限への挑戦』及び平成29年度版から刷新した大学院研究科案内、③学部学生が編集を担当する年2回発行の『飛翔』である。

また、平成29年度は、学部案内について、平成30年度の国際共創学科(IGS)設

置に伴い、学科毎に作成するよう見直しや検討を行った。

なお、ホームページについては、レイアウト及び項目などの見直しを適宜行い、改善に努めるとともに、研究成果、セミナー・イベント開催等最新情報の提供を行っている。

本学部・本研究科として、夢ナビライブ（大学合同説明会）に積極的に参加し、平成 27～29 年度に 4 名の教員が講義ライブを実施した。また、その動画を Web サイトでミニ講義として配信を行っており、特に受験生を対象に積極的に広報を行っている。平成 27～29 年度の実施状況は表 5-1-4 のとおりである。

2. 点検・評価

(1) 公開講座及び一日体験入学

1) 効果が上がっている事項

公開講座は、社会貢献を主たる目的としており、さらに一日体験入学は受験生への情報提供という意味も併せ持っている。参加者のアンケート結果からは、「専門分野の先生の話が聞けてとてもわかりやすく期待どおりで参考になった」、「学際的知見を多く得られた」、「地球温暖化問題や自然災害への対処のようなテーマについて開講してほしい」などのポジティブなコメントがあり、総じて好評である。

2) 改善すべき事項

公開講座については、「質疑応答の時間をもっと取ってほしい」「講義のタイムスケジュールを明示してほしい」とのコメントがあり、講義時間及び回数については検討が必要であろう。

一日体験入学でのアンケート結果から、参加理由の大部分を「講座内容に興味や関心があった」、「仕事上役に立ちそうだった」、「新しい知識や考え方を学ぶ」が占めていることから、今後とも教養を高めるもの、また、時代の変化に対応しうような社会の関心や興味に関するものを積極的に取り入れたプログラムを組む必要がある。

(2) 広報活動

1) 効果が上がっている事項

学部案内は、高等学校などに配布するとともに、入試説明会、オープンキャンパスなどで活用され、本学部・本研究科の教育研究活動の広報に寄与している。また『叢書インテグラール』は、専門的な内容を平易に表現することを目指した教養書であり、その普及は地域貢献に資するものである。

また、夢ナビライブの参加者（受験生）によるアンケート結果からは、「総合科学という幅広い視野から環境問題に取り組んでいることを知りとても興味を持った」、「広島大学で本格的に先生の授業を受けたいと思った」、「言語学や総合科学に興味が出た」、「総合科学部って訳の分からない学部だと思っていたが、自分の中の視点とは違う視点で、新たな発見がありとても面白かった」とのコメントがあり、志望動機につながるような高評価を得ている。

総合科学部国際共創学科（平成 30 年 4 月設置）では、定員 40 名のうち約半数を海外からの留学生とし、様々な国籍の学生が共に学ぶ国際協働学習の場を提供することを目指している。そのため、学生募集・広報活動として、平成 29 年度には、国際共創学科担当教員が日本国内の高校及びインターナショナルスクール並びにアジア各国・地域の高校（中国、韓国、台湾、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア）を訪問し、高校生を対象とした説明会を実施した。

また、コンサルタント会社にリクルート活動を委託し、ベトナムやフィリピンにおいて現地スタッフによる高校訪問やフォローアップを行った。

こうした海外での広報活動に必要なパンフレットやリーフレットを作成し、ホームページをさらに充実させた。

その結果、平成 30 年度は多様な地域から 44 名（うち外国国籍を持つ学生 15 名）の優秀な学生の獲得に繋がった。

2) 改善すべき事項

広報活動は、短期的に志願者増加に結びつくものでは必ずしもない。しかしながら、利用者や出席者の利便性からも必要な検証を行い、他委員会と連携しながら、必要な情報をより効果的に発信していく必要がある。

3. 今後の方針

公開講座及び一日体験入学については、講義やセミナーを担当する教員に一任している面が多いので、企画そのものの統一性や社会に向けてのアピール度について、より組織的に検討する必要がある。また一日体験入学については、その位置付けについてより細やかな議論を重ねながら、一層充実したものとする予定である。

また、出版物、ホームページの PDCA を継続することも大切である。紀要や『叢書インテグラール』については、その普及に努め、その価値を広く理解してもらう必要がある。ホームページについては、コンテンツの見直し等を行い、戦略的に活用することが重要である。

平成 30 年度発足の国際共創学科（IGS）の受験生確保のため、海外の高校生に対する説明会をはじめとする情報提供を今後さらに活性化する必要がある。

表5-1-1 公開講座（平成27～29年度） ※職名は開講時のものを記載。

平成27年度

テーマ	「ヒロシマ」の語る平和 ～被爆70年をふりかえって～		日本の美学と芸術		スポーツを通じた 健康セミナー		文化交流論					
	担当講師名	所属	職名	担当講師名	所属	職名	担当講師名	所属	職名			
担当教員	布川 弘	総合科学研究科	教授	青木 孝夫	総合科学研究科	教授	長谷川 博 関矢 寛史 和田 正信 小田 典子 船瀬 広三 米澤 和洋 木庭 康樹	総合科学研究科	准教授 教授 教授 非常勤講師 非常勤講師 助教	西 佳代 高谷 紀夫 田原 光広 要田 圭治 ロワイアルヘルス・ラボード	総合科学研究科	准教授 教授 准教授 教授
受講者数		120名		青木 孝夫	総合科学研究科	教授						60名

平成28年度

テーマ	水・地域・サステナビリテイ		自然災害のリスクの実態と 防災・減災に向けた対応		日本の美学と芸術		芸術と老年 Arts and Aging					
	担当講師名	所属	職名	担当講師名	所属	職名	担当講師名	所属	職名			
担当教員	浅野 敏久 小野寺 真一	総合科学研究科	教授 教授	岩永 誠 匹田 篤 海堀 正博	総合科学研究科	教授 准教授 教授	青木 孝夫 桑島 秀樹 松井 富美男 S.トレンソン 大島 徹也 城市 真理子 磯山 雅	総合科学研究科 総合科学研究科 文学研究科 総合科学研究科 総合科学研究科 広島市立大学 国立音楽大学	教授 教授 教授 准教授 准教授 准教授 招聘教授			
受講者数		21名			総合科学研究科		青木 孝夫	総合科学研究科	教授			50名

平成29年度

テーマ	誰かに話したくなるころ を軽くする働きかた		日本の美学と芸術		芸術と老年 Arts and Aging							
	担当講師名	所属	職名	担当講師名	所属	職名						
担当教員	岩永 誠 坂田 桐子 林 光緒	総合科学研究科	教授 教授 教授	青木 孝夫 臧 新明 臧 のり子 大山 範子 青山 昌文	総合科学研究科 中国・山西大学 東京学芸大学 神戸女子大学 古典芸能研究 センター 放送大学	教授 教授 教授 非常勤研究員 教授 教授	青木 孝夫 富美男 航 S.トレンソン 大島 徹也 桑島 秀樹 城市 真理子 磯山 雅	総合科学研究科 文学研究科 美術評論家 総合科学研究科 総合科学研究科 総合科学研究科 広島市立大学 国立音楽大学	教授 教授 教授 准教授 准教授 教授 准教授 招聘教授			
受講者数		67名			総合科学研究科							50名

表 5-1-2 一日体験入学（平成 27～29 年度）

平成 27年度	講義	ヒロシマの訴える平和：被爆70年をふりかえって	布川 弘
		エネルギー問題と水素社会	市川 貴之
	セミナー	短詩型文学の世界	島谷 謙
		眠りを科学する～眠りの仕組みと役割から快適生活を考える～	小川 景子
		この食欲はどこから来る？—脳と食欲の関係を考える—	斎藤 祐見子
		アルゴリズムと計算量の理論	岩本 宙造
		日本語の中の外来語	荒見 泰史
社会学入門—家族とは何か—	秋葉 節夫		
平成 28年度	パネルディスカッション	教養教育の現在と未来—大学教育に望むこと—	
	問題提起①	社会の株式会社化と学問	布川 弘
	問題提起②	情報化社会と教養	匹田 篤
	コメント	教養教育を担当する理系教員として思うこと	乾 雅祝
	セミナー	「ことば」から「こころ」を見る	町田 章
		入門 熱中症予防	長谷川 博
		微生物の共生を通して『共生』を考える	久我 ゆかり
光の不思議		荻田 典男	
統計と統計学のルーツのはなし		市橋 勝	
	アメリカ南北戦争の起源	岡本 勝	
平成 29年度	講義	思考と言語	町田 章
		総合物理としての熱と結晶	戸田 昭彦
		天使の世界	辻 学
	セミナー	脳の作る不思議の世界—人はなぜお化けを見るのか—	岩永 誠

表5-1-3 『叢書インテグラール』（平成27～29年度）

年 度	テーマ	責任編集/著作者	発行所
平成27年度	世界の高等教育の改革と教養教育—フンボルトの悪夢	責任編集 平手 友彦, 青木 利夫	丸善出版株式会社
平成28年度	左と右・対称性のサイエンス	責任編集 佐藤 高晴	丸善出版株式会社
平成29年度	タバコ広告でたどるアメリカ喫煙論争	著作者 岡本 勝	丸善出版株式会社

表5-1-4 夢ナビ講義ライブ（平成27～29年度）

年 度	テーマ	担当教員
平成27年度	英語コミュニケーションの裏ワザ	柴田 美紀
平成28年度	受験勉強と睡眠のカンケイ	林 光緒
平成29年度	どうして森をまもらないといけないの？	山田 俊弘
	ことばから心を見る	町田 章

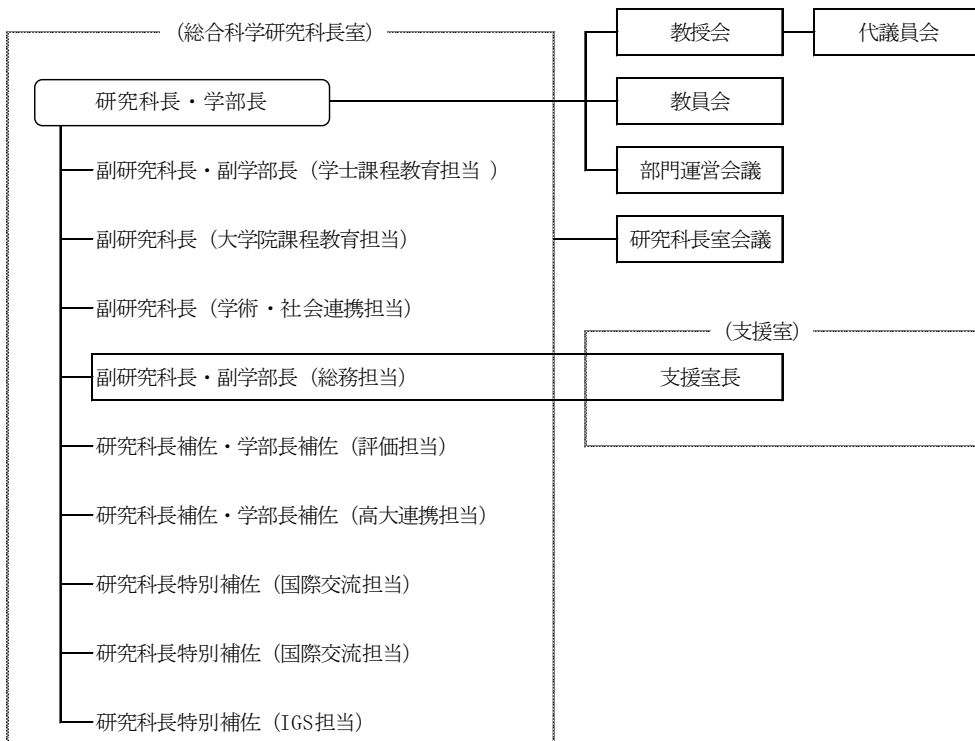
第2節 管理・運営

1. 現状説明

(1) 運営組織

国立大学の法人化に伴い、法人化後は、部局長の権限と責任に基づく迅速かつ的確な組織運営体制を構築するとともに、教員の管理運営に関わる業務を削減し、可能な限り教育活動、研究活動に専念できる新しい運営組織の構築を目指し、平成30年3月31日現在の組織は図5-2-1のようになっている。

図5-2-1 運営組織図（平成30年3月31日現在）



本研究科では「部局における重要事項について企画立案等を行い、部局長を直接的に支援する組織」（広島大学部局運営規則第6条）として研究科長室を設置している。そのメンバーは「室長である研究科長，副研究科長，研究科長補佐及び研究科長が必要と認めた者で構成」（広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部運営内規第8条）し、その職掌を「広島大学大学院総合科学研究科長室運営細則」において、次のように定めている。

- (1) 長期的な目標，中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項
- (2) 教授会等の審議に関する事項

- (3) 教育活動，研究活動及び社会貢献活動に関する事項
- (4) 国際交流に関する事項
- (5) 人的資源，物的資源及び財的資源の活用に関する事項
- (6) 規則等の制定及び改廃に関する事項
- (7) 危機管理及び安全衛生管理に関する事項
- (8) 情報ネットワーク及び情報セキュリティに関する事項
- (9) 教育研究活動等の点検・評価・改善及び公表に関する事項
- (10) 広報及び構成員の意見聴取に関する事項
- (11) その他研究科長室の目的を達成するために必要な事項

研究科長室は，本研究科及び本学部における業務の企画・立案及び執行する役割を担っているため，研究科長室会議を週 1 回程度開催し，運営などに関する事項を審議・検討している。

(2) 審議機関

広島大学部局運営規則第 11 条に基づき，広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部運営内規第 9 条で「教授会は，研究科教授会及び学部教授会とする」と定めるとともに，教授会の運営に関し必要な事項は，次の広島大学大学院総合科学研究科教授会内規，広島大学大学院総合科学研究科教授会運営細則，広島大学総合科学部教授会内規及び広島大学総合科学部教授会運営細則において定めている。

広島大学部局運営規則（抄）

（教授会）

第 11 条 部局に，審議機関として教授会を置く。

2 （略）

3 教授会は，当該部局における次の事項を審議する。

- (1) 長期的な目標，中期目標・中期計画及び年度計画における教育，研究及び社会貢献活動に関する事項
- (2) 教員選考における教育，研究及び社会貢献に係る業績審査に関する事項
- (3) 学生の受入れと身分に関する事項
- (4) 学位の授与に関する事項
- (5) 教育課程に関する事項
- (6) 研究活動に関する事項
- (7) 社会貢献活動に関する事項
- (8) 教育，研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- (9) その他部局長が必要と認めた教育，研究及び社会貢献に関する事項

広島大学大学院総合科学研究科教授会内規（抄）

（審議事項）

第3条 教授会は、規則第11条第3項に定める事項を審議する。

(略)

(代議員会)

第8条 代議員会に関し必要な事項は、別に定める。

広島大学大学院総合科学研究科教授会運営細則(抄)

(審議事項)

第3条 教授会における審議事項は、次に掲げる事項とする。

(1) 研究科における研究及び社会貢献活動に関する事項

- イ 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における研究及び社会貢献活動に関する事項
- ロ 教員選考における教育研究及び社会貢献に係る業績審査に関する事項
- ハ 研究活動に関する事項
- ニ 社会貢献活動に関する事項
- ホ 教育研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- ヘ その他研究科長が必要と認めた教育研究及び社会貢献に関する事項

(2) 研究科における教育に関する事項

- イ 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育に関する事項
- ロ 教員の教育担当に関する事項
- ハ 学生の受入れ及び身分に関する事項
- ニ 学位の授与に関する事項
- ホ 教育課程に関する事項
- ヘ 教育に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- ト その他研究科長が必要と認めた教育に関する事項

(略)

(代議員会の審議事項)

第7条 教授会は、次に掲げる事項の審議を代議員会に付託し、代議員会の議決をもって教授会の議決とする。

- (1) 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育、研究及び社会貢献活動に関する事項
- (2) 教員の教育担当に関する事項
- (3) 学生の受入れ及び身分に関する事項(学生の入学、懲戒及び除籍に関する事項を除く。)
- (4) 教育課程に関する事項
- (5) 研究活動に関する事項
- (6) 社会貢献活動に関する事項
- (7) 教育研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- (8) その他教授会から付託された事項

広島大学総合科学部教授会内規（抄）

（審議事項）

第3条 教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育に関する事項
- (2) 教員の教育担当に関する事項
- (3) 学生の受入れ及び身分に関する事項
- (4) 学位の授与に関する事項
- (5) 教育課程に関する事項
- (6) 教育に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- (7) その他学部長が必要と認めた教育に関する事項
（略）

（代議員会）

第8条 代議員会に関し必要な事項は、別に定める。

広島大学総合科学部教授会運営細則（抄）

（代議員会の審議事項）

第4条 教授会は、教授会内規第3条に規定する審議事項のうち次に掲げる事項を代議員会に審議を付託し、代議員会の議決をもって教授会の議決とする。

- (1) 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育に関する事項
- (2) 教員の教育担当に関する事項
- (3) 学生の受入れ及び身分に関する事項（学生の入学、懲戒及び除籍に関する事項を除く。）
- (4) 教育課程に関する事項
- (5) 教育に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- (6) その他教授会から付託された事項

各々の教授会又は代議員会においては、審議事項について、月1回程度開催し審議しており、部局の審議機関としての役割を適切に果たしている。

（3）各種委員会

本研究科・本学部の運営のために表5-2-1に示したような委員会を設けている。
なお、本報告書のかかなりの部分は、これらの委員会の点検・評価に基づいている。

（4）教員組織

広島大学の講座、学科目、部門、研究部門等及び診療科等規則第2条第2項「大学の研究科に、講座を置く」に基づき、本研究科総合科学専攻に5つの基幹講座（行

動科学講座，人間文化研究講座，環境自然科学講座，社会文明研究講座，地域研究講座）と1つの協力講座（情報システム研究講座）を置き，専任教員を配置している。

また，本学部においては，広島大学の講座，学科目，部門，研究部門等及び診療科等規則第2条第1項「学部に，学科目を置く」に基づき，総合科学科に10の学科目（地域文化学科目，社会文化学科目，人間文化学科目，言語文化学科目，行動科学科目，スポーツ科学科目，生命科学科目，数理情報科学科目，総合物理科学科目，自然環境科学科目）を置き，10の主専攻プログラムを設置してきた。平成25年度からは教育プログラムの再編を行い，1プログラムとし，学部教育を行うために，学部併任教員を配置している。

平成30年度における国際共創学科(IGS)の設置とそれに伴う2学科体制への移行，及び全学の研究科再編に伴う配置換（生命科学関連教員の統合生命科学研究科への平成31年度配置換，その他教員の新研究科への2020年度配置換）の検討が進む中，教育と研究を安定して継続できる組織作りが必要となる。

(5) 事務組織

法人化に伴い従来の部局事務室を見直し，部局における重要事項について企画立案及び業務を執行し，部局長を直接的に支援する組織として部局長室（総合科学研究科長室）を置き，また，部局の運営を円滑に行うための教育研究学生等支援組織として支援室（総合科学研究科支援室）を配置した。

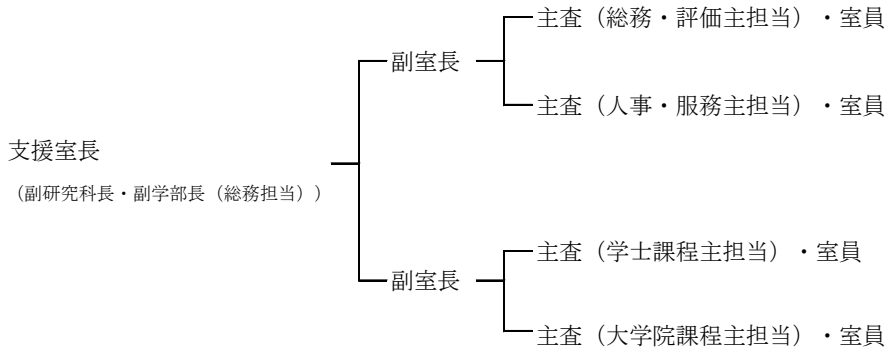
なお，事務組織は，業務の効率的な遂行や人件費削減等の観点から随時見直されている。変更経緯は次のとおりである。

- | | |
|-----------|---|
| 平成18年4月1日 | 教育研究学生支援室が「支援室」に名称変更 |
| 平成21年4月1日 | 副研究科長（総務担当）は，支援室長をもって充てるとされた。
部局長支援グループと教育研究活動支援グループを見直し，「運営支援グループ」に名称変更 |
| 平成22年4月1日 | 学生支援グループの職員が教育室所属から総合科学研究科所属に変更 |
| 平成26年6月1日 | 運営支援体制の見直しにより，東広島地区運営支援部総合科学研究科支援室に名称変更
運営支援体制の再編に伴い，財務関係業務を「共通事務室」に集約 |

平成30年3月31日現在の支援室の構成は，図5-2-2のとおりである。

図 5-2-2

平成30年3月31日現在



(6) 予算・決算

本研究科の予算については、毎年度、予算配分要項（財務委員会、研究科長室会議で審議）を定めており、教員・講座等への配分予算、学部・研究科共通予算及び全学共通経費（光熱水料インセンティブ分）とに区分して、経理される。

基盤経費のうち、基盤教育費（学士課程積算分）は、教員現員数に基づき各講座へ配分、基盤教育費（修士課程積算分）及び基盤研究費（博士課程積算分）は主指導教員に配分している。この配分額は、本学積算額から一部控除した額となっており、控除分は学部・研究科共通予算に組替えている。基盤研究費（研究費積算分）は、平成28年度より積算額の一部を控除して、科学研究費助成事業の申請件数に応じて各部局に傾斜配分されているが、本研究科では傾斜配分は学部・研究科共通予算として一旦執行を留保した上で、予算状況に応じて教員に配分している。（平成28年度、平成29年度ともに控除されていた金額を、全額教員に配分。）

また、研究科の独自プロジェクトとして、21世紀科学プロジェクト群、総合科学推進プロジェクト等を実施するための予算を毎年度確保しており、新たに発展するプロジェクトの支援を継続して実施している。

学部・研究科共通予算については、平成26年度末に6,128千円の赤字であったが、平成27年度より基盤教育費、基盤研究費からの一部控除額を増額することで、平成28年度より黒字に転換した。さらに、全学共通経費（光熱水料インセンティブ分）も、予算額の基準となる平成26年度より電気料単価の削減によって残額が大きくなっており、これが翌年度以降の学部・研究科共通予算に組み込まれている。

なお、平成29年度までは教養教育に係る非常勤講師経費が、本研究科の予算における大きな負担となっていたが、平成30年度より教育室の負担となった。このため、平成30年度以降は基盤教育費、基盤研究費からの一部控除額の削減を行うとともに、学部・研究科共通予算での環境整備を計画的に実施することが可能となっている（表5-2-2）。

(7) 教員の個人評価

平成28年度から教員の個人評価を行い、評価結果を給与の昇給に反映させている。

平成 28 年度の評価は平成 27 年度実績に基づき行い、以降前年度の実績に基づく評価と昇給への反映を行っている。評価項目は教育活動、研究活動、外部資金、社会活動、大学運営の 5 つに大別し、さらに研究科長調整を加えた総合評価を行っている。本研究科における研究領域の多様性から単一の評価基準を用いることは相応しくないため、文系教員と理系教員で各項目内の細目への配点を変えている。また、教授・准教授・講師の配点と助教の配点も教育や大学運営において求められる役割が異なることから異なる配点を用いている。また、これらの個人評価基準に基づいて算出された評価得点を用いて、昇給は文系教授、文系准教授・講師、文系助教、理系教授、理系准教授・講師、理系助教の 6 つの職階ごとに人数を割り振っている。昇給区分の A（勤務成績が極めて良好）については、何度でも該当者となる機会を与えているが、B（勤務成績が特に良好）については、本研究科の教員の大半が順番に該当者となり得るような制度設計としている。その理由は、教員のモチベーションの向上を図ると同時に、個人評価基準に反映されない活動へのモチベーションを担保することにある。また、個人評価基準は毎年見直しを行っている。

2. 点検・評価

本研究科・本学部の全教職員は、全学の規則に従い運営のために必要な組織を整備し、絶えざる点検・評価活動を通じて、自己改革を行ってきた（役職員などについては表 5-2-3 を参照）。例えば研究科長室会議は、平成 27 年度 48 回、平成 28 年度 49 回、平成 29 年度は 47 回と精力的に企画・立案に努めてきた。また、教授会構成員のコンセンサスを得るために必要な会議は十分に確保した上で、しかし教育・研究業務の妨げとならないように会議の開催数の削減に努めた。その結果、研究科教授会は平成 27 年度 16 回、平成 28 年度 13 回、平成 29 年度は 14 回、学部教授会も平成 27 年度 7 回、平成 28 年度 8 回、平成 29 年度は 8 回の開催となった（表 5-2-4）。これらは平成 23～25 年度の開催数である研究科教授会の毎年 20 回以上ならびに学部教授会の毎年 10 回以上より少ないが、構成員への情報提供を担保するために会議資料のネット上での閲覧を可能として効率化を図り、会議の回数や時間の削減を行った。本研究科・本学部独自のファカルティ・ディベロプメント（FD）も積極的に開催しており、教員の知見を深めるとともに、改革のための意識を高めた（表 5-2-5）。さらに平成 27 年度実績を基に、平成 28 年度から教員の個人評価を始めたことにより、教員の教育、研究、大学運営などの活動への取り組みの状況を把握できるようになった。

3. 今後の方針・課題など

スーパーグローバル大学創成事業（SGU 事業）及び研究大学強化促進事業（RU 事業）の遂行に伴い、大学改革が進行中であり、全学レベルでの研究科再編による影響が本研究科、本学部にも生じることは明らかである。それらの変化に対して、迅速な情報収集と構成員への伝達をはじめ、研究科長室会議及び教授会で適切な対応を考えていく必要がある。教員組織の再編に伴う事務組織の再編の影響も予想され、教育、研究、社会活動に支障がないように対処することが課題となる。また、平成 30 年度の国際共創学科（IGS）の創設に伴う教員と事務職員の担当学科異動において、適材適所となる人材の

異動が求められる。また、国際共創学科（IGS）の創設に伴う留学生の増加から、留学生への教育や事務対応における留意点などについてFDを通して情報交換する必要がある。さらに研究科再編の動向などもFDを通して迅速に情報を伝えることが求められるであろう。

表5-2-1 各種委員会委員名簿

平成27年度

研究科代議員会

研究科長	吉田光演
副研究科長(学術・社会連携担当)	岩永誠
副研究科長(大学院課程教育担当)	山崎岳
副研究科長(学士課程教育担当)	吉村慎太郎
副研究科長(総務担当)	山崎護
研究科長補佐(教養教育担当)	乾雅祝
研究科長補佐(評価担当)	古川康雄
研究科長補佐(高大連携担当)	荻田典男
人間科学部門長	坂田省吾
環境科学部門長	浅野敏久
文明科学部門長	高谷紀夫
行動科学講座主任	坂田桐子
人間文化研究講座主任	井上永幸
環境自然科学講座主任	戸田昭彦
情報システム研究講座主任	相原玲二
社会文明研究講座主任	材木和雄
地域研究講座主任	要田圭治
人事委員会委員長	樫原修
21世紀科学プロジェクト委員会委員長	堀江剛
広報・出版委員会委員長	辻学

人事特別委員会

委員長	副研究科長(学術・社会連携担当)	岩永誠
委員	副研究科長(大学院課程教育担当)	山崎岳
	副研究科長(学士課程教育担当)	吉村慎太郎
	副研究科長(総務担当)	山崎護
	人事委員会委員長	樫原修
	人事委員会委員(教授会選出)	青木孝夫
	人事委員会委員(教授会選出)	海堀正博
	人事委員会委員(教授会選出)	坂田省吾
	人事委員会委員(教授会選出)	三木直大

人事委員会

委員長	(教授会選出)	樫原修
委員	(教授会選出)	青木孝夫
	(教授会選出)	海堀正博
	(教授会選出)	坂田省吾
	(教授会選出)	三木直大
	行動科学講座	古川康雄
	人間文化研究講座	安仁屋宗正
	環境自然科学講座	浴野稔一
	社会文明研究講座	秋葉節夫
	地域研究講座	田中暁
	教務委員会委員長	山崎岳
	21世紀科学プロジェクト委員会委員長	堀江剛
	教育領域委員会委員長	吉村慎太郎

評価委員会

委員長	研究科長補佐(評価担当)	古川康雄
委員	副研究科長(総務担当)	山崎護
	人間科学部門長	坂田省吾
	環境科学部門長	浅野敏久
	文明科学部門長	高谷紀夫
	人間科学部門	柴田美紀
	環境科学部門	石坂智
	文明科学部門	荒見泰史
	教務委員会選出	田口健
	21世紀科学プロジェクト委員会選出	浅野敏久
	教育領域委員会選出	井口容子
	人事委員会選出	古川康雄

研究倫理委員会

委員長		山崎昌廣
委員	人間科学部門	小川景子
	環境科学部門	畠中憲
	文明科学部門	市川浩

将来計画委員会

委員長		関矢寛史
委員	副研究科長(学術・社会連携担当)	岩永誠
	人事委員会委員長	樫原修
	財務委員会委員長	水羽信男
	評価委員会委員長	古川康雄
	内規 第3条(6)	浅野敏久
	内規 第3条(6)	小野寺真一
	内規 第3条(6)	荻田典男

企画専門部会

部会長	将来計画委員会委員長	関矢寛史
	内規 第7条第2項(2)	荒見泰史
	内規 第7条第2項(2)	乾雅祝
	内規 第7条第2項(2)	布川弘彦
	内規 第7条第2項(2)	平手友彦

ワーキンググループ

		青木利夫
		浮穴和義
		小川景子
		隠岐さや香
		西佳代
		長谷川博
		匹田篤
		宗尻修治
		町田章
		的場いづみ

財務委員会

委員長	水羽信男
委員	副研究科長（学術・社会連携担当）
	行動科学講座
	人間文化研究講座
	環境自然科学講座
	社会文明研究講座
	地域研究講座

広報・出版委員会

委員長	辻学
委員	人間科学部門
	人間科学部門
	人間科学部門
	環境科学部門
	環境科学部門
	環境科学部門
	文明科学部門
	文明科学部門
	文明科学部門

教務委員会

委員長	副研究科長（大学院課程教育担当）	山崎岳
委員	人間科学部門長	坂田省吾
	環境科学部門長	浅野敏久
	文明科学部門長	高谷紀夫
	生命科学研究領域主任	斎藤祐見子
	人間行動研究領域主任	坂田桐子
	身体運動科学研究領域主任	山崎昌廣
	言語研究領域主任	柴田美紀
	人間存在研究領域主任	桑島秀樹
	自然環境研究領域主任	佐藤高晴
	総合物理研究領域主任	田口健
	情報システム環境研究領域主任	児玉明
	社会環境研究領域主任	フランク・カロリン・E. II.
	文明史基礎研究領域主任	シュワルプ・ハンス・ミヒヤエル
	地域研究領域主任	佐竹昭
	21世紀科学プロジェクト委員会委員長	堀江剛

国際交流委員会

委員長	荒見泰史
委員	短期留学交流部会委員
	教務委員会選出
	教務委員会選出
	教育領域委員会選出
	教育領域委員会選出
	留学生担当教員

研究科入学試験委員会

委員長	西村雄郎
委員	生命科学研究領域
	人間行動研究領域
	身体運動科学研究領域
	言語研究領域
	人間存在研究領域
	自然環境研究領域
	総合物理研究領域
	情報システム環境研究領域
	社会環境研究領域
	文明史基礎研究領域
	地域研究領域
	21世紀プロジェクト委員会選出

研究科入学試験合格者判定委員会

委員長	研究科長	吉田光演
委員	副研究科長（大学院課程教育担当）	山崎岳
	人間科学部門長	坂田省吾
	環境科学部門長	浅野敏久
	文明科学部門長	高谷紀夫
	入学試験委員会委員	

21世紀科学プロジェクト委員会

委員長	堀江剛
委員	教務委員会委員長
	言語と情報研究プロジェクト
	リスク研究プロジェクト
	文明と自然研究プロジェクト
	資源エネルギー研究プロジェクト
	平和科学研究プロジェクト
	教養教育研究開発プロジェクト

リサーチマネージャー養成プログラム運営委員会

委員長	戸田昭彦
委員	安仁屋宗正
	浅野敏久
	岩永誠
	小野寺真一
	佐竹昭
	布川弘
	堀江剛
	町田宗鳳
	山崎岳
	吉田光演
	青木利夫
	稲垣知宏
	佐藤高晴
	匹田篤

教育領域委員会

委員長	副学部長（学士課程教育担当）	吉村 慎太郎
副委員長	人間探究領域 教育領域主任	船瀬 広三
副委員長	自然探究領域 教育領域主任	東谷 誠二
副委員長	社会探究領域 教育領域主任	平手 友彦
委員	人間探究領域	井口 容子
	人間探究領域	島谷 謙
	人間探究領域	入戸野 宏
	自然探究領域	小野寺 真一
	自然探究領域	向谷 博明
	自然探究領域	浮穴 和義
	社会探究領域	丸田 孝志
	社会探究領域	佐々木 宏
	社会探究領域	西 佳代

学部入学試験委員会

委員長		久我 ゆかり
委員	人間探究領域	船瀬 広三
	人間探究領域	杉浦 義典
	人間探究領域	トレンソン スティーブン
	自然探究領域	森本 康彦
	自然探究領域	石坂 智
	自然探究領域	佐藤 明子
	社会探究領域	山崎 修嗣
	社会探究領域	大池 真知子
	社会探究領域	匹田 篤

学部入学試験合格者判定委員会

委員長	学部長	吉田 光演
委員	副学部長（学士課程教育担当）	吉村 慎太郎
	入学試験委員会委員長	久我 ゆかり

学部卒業生判定委員会

委員長	学部長	吉田 光演
委員	副学部長（学士課程教育担当）	吉村 慎太郎
	人間探究領域 教育領域主任	船瀬 広三
	自然探究領域 教育領域主任	東谷 誠二
	社会探究領域 教育領域主任	平手 友彦

放射性同位元素委員会

委員長	放射線取扱副主任者	山崎 岳
委員	副研究科長（学術・社会連携担当）	岩永 誠
	行動科学講座	
	（放射線取扱主任者）	石原 康宏
	環境自然科学講座	
	（放射線取扱主任者）	梶原 行夫
	放射線障害防止管理者	山崎 護

安全衛生委員会

委員長	研究科長	吉田 光演
委員	衛生管理者	山田 俊弘
	衛生管理者	橋原 孝博
	衛生管理者	根平 達夫
	薬品管理システム管理者	
	衛生管理者	町田 章
	衛生管理者	田口 健
	衛生管理者	河本 尚枝
	衛生管理者	的場 いづみ
	衛生管理者	澁谷 一博
	薬品管理システム管理者	山崎 岳
	薬品管理システム管理者	竹田 一彦
	内規 第3条(5)	上西 幸治

平成28年度

研究科代議員会

研究科長	岩 永 誠
副研究科長 (学術・社会連携担当)	山 崎 岳
副研究科長 (大学院課程教育担当)	長 田 浩 彰
副研究科長 (学士課程教育担当)	船 瀬 広 三
副研究科長 (総務担当)	山 崎 護
研究科長補佐 (教養教育担当)	戸 田 昭 彦
研究科長補佐 (評価担当)	関 矢 寛 史
研究科長補佐 (高大連携担当)	荻 田 典 男
人間科学部門長	井 上 永 幸
環境科学部門長	浅 野 敏 久
文明科学部門長	要 田 圭 治
行動科学講座主任	和 田 正 信
人間文化研究講座主任	青 木 孝 夫
環境自然科学講座主任	海 堀 正 博
情報システム研究講座主任	西 村 浩 二
社会文明研究講座主任	吉 村 慎 太郎
地域研究講座主任	水 羽 信 男
21世紀科学プロジェクト委員会委員長	小 野 寺 真 一
広報・出版委員会委員長	辻 学

人事特別委員会

委員長	副研究科長 (学術・社会連携担当)	山 崎 岳
委員	副研究科長 (総務担当)	山 崎 護
	教務委員会委員長	長 田 浩 彰
	教育領域委員会委員長	船 瀬 広 三
	人事委員会委員 (教授会選出)	久 我 ゆ かり
	人事委員会委員 (教授会選出)	坂 田 省 吾
	人事委員会委員 (教授会選出)	布 川 弘
	人事委員会委員 (教授会選出)	吉 田 光 演
	副研究科長が必要と認められた者若干人	吉 村 慎 太郎

研究倫理委員会

委員長	東 谷 誠 二	
委員	人間科学部門長	井 上 永 幸
	環境科学部門長	浅 野 敏 久
	文明科学部門長	要 田 圭 治
	人間科学部門	小 川 景 子
	環境科学部門	畠 中 憲 之
	文明科学部門	市 川 浩

評価委員会

委員長	研究科長補佐 (評価担当)	関 矢 寛 史
委員	副研究科長 (総務担当)	山 崎 護
	人間科学部門長	井 上 永 幸
	環境科学部門長	浅 野 敏 久
	文明科学部門長	要 田 圭 治
	人間科学部門	石 田 敦 彦
	環境科学部門	奥 田 敏 統
	文明科学部門	城 戸 光 世
	教務委員会選出	浴 野 稔 一
	21世紀科学プロジェクト委員会選出	浅 野 敏 久
	教育領域委員会選出	長 谷 川 博

将来計画委員会

委員長		浅 野 敏 久
委員	副研究科長 (学術・社会連携担当)	山 崎 岳
	内規 第3条 (2)	小 野 寺 真 一
	評価委員会委員長	関 矢 寛 史
	内規 第3条 (4)	荻 田 典 男

企画専門部会

部会長	将来計画委員会委員長	浅 野 敏 久
	内規 第7条第2項 (2)	荒 見 泰 史
	内規 第7条第2項 (2)	海 堀 正 博
	内規 第7条第2項 (2)	戸 田 昭 彦
	内規 第7条第2項 (2)	布 川 弘

ワーキンググループ

	内規 第8条	青 木 利 夫
	内規 第8条	石 田 敦 彦
	内規 第8条	長 谷 川 博
	内規 第8条	丸 田 孝 志
	内規 第8条	市 川 貴 之
	内規 第8条	大 島 徹 也
	内規 第8条	小 川 景 子
	内規 第8条	佐 々 木 宏
	内規 第8条	柴 田 美 紀
	内規 第8条	田 口 健
	内規 第8条	長 坂 格
	内規 第8条	並 木 敦 子
	内規 第8条	西 佳 代
	内規 第8条	根 平 達 夫
	内規 第8条	匹 田 篤
	内規 第8条	町 田 章
	内規 第8条	的 場 い づ み
	内規 第8条	宗 尻 修 治
	内規 第8条	山 田 俊 弘
	内規 第8条	

クワッサー ロバート ホースト

財務委員会

委員長		齋藤 祐見子
委員	副研究科長（学術・社会連携担当）	山崎 岳
	行動科学講座	坂田 省吾
	人間文化研究講座	安仁屋 宗正
	環境自然科学講座	乾 雅祝
	社会文明研究講座	材木 和雄
	地域研究講座	布川 弘

広報・出版委員会

委員長		辻 学
委員	人間科学部門	小宮 あすか
	人間科学部門	石川 雅隆
	人間科学部門	石田 敦彦
	環境科学部門	石坂 智
	環境科学部門	福田 恵
	環境科学部門	鈴木 俊哉
	文明科学部門	崔 真碩
	文明科学部門	田原 光広
	文明科学部門	的場 いづみ

教務委員会

委員長	副研究科長（大学院課程教育担当）	長田 浩彰
委員	人間科学部門長	井上 永幸
	環境科学部門長	浅野 敏久
	文明科学部門長	要田 圭治
	生命科学研究領域主任	齋藤 祐見子
	人間行動研究領域主任	坂田 桐子
	身体運動科学研究領域主任	和田 正信
	言語研究領域主任	柴田 美紀
	人間存在研究領域主任	桑島 秀樹
	自然環境研究領域主任	山田 俊弘
	総合物理研究領域主任	浴野 稔一
	情報システム環境研究領域主任	児玉 明
	社会環境研究領域主任	山崎 修嗣
	文明史基礎研究領域主任	ジュラルフ、ハンズ ミヒヤエル
	地域研究領域主任	田中 暁
	21世紀科学プロジェクト委員会委員長	小野寺 真一

国際交流委員会

委員長		井口 容子
委員	短期留学交流部会委員	丸田 孝志
	教務委員会選出	児玉 明
	教務委員会選出	桑島 秀樹
	教育領域委員会選出	大島 徹也
	教育領域委員会選出	小野寺 真一
	留学生担当教員	河本 尚枝

研究科入学試験委員会

委員長		青木 利夫
委員	生命科学研究領域	山崎 岳
	人間行動研究領域	林 光緒
	身体運動科学研究領域	長谷川 博
	言語研究領域	吉田 光演
	人間存在研究領域	宮園 健吾
	自然環境研究領域	ゲルメスガ 真澄美
	総合物理研究領域	市川 貴之
	情報システム環境研究領域	近堂 徹
	社会環境研究領域	河本 尚枝
	文明史基礎研究領域	佐野 真理子
	地域研究領域	城戸 光世
	21世紀プロジェクト委員会選出	田中 晋平

研究科入学試験合格者判定委員会

委員長	研究科長	岩永 誠
委員	副研究科長（大学院課程教育担当）	長田 浩彰
	人間科学部門長	井上 永幸
	環境科学部門長	浅野 敏久
	文明科学部門長	要田 圭治
	入学試験委員会委員	

21世紀科学プロジェクト委員会

委員長		小野寺 真一
委員	教務委員会委員長	長田 浩彰
	言語と情報研究プロジェクト	町田 章
	文明と自然研究プロジェクト	浅野 敏久
	リスク研究プロジェクト	海堀 正博
	資源エネルギー研究プロジェクト（兼任）	小野寺 真一
	要素システム研究プロジェクト	田中 晋平
	ヒロシマの形成プロジェクト	布川 弘
	環境平和学プロジェクト	西 佳代
	ヒロシマ韓国学プロジェクト	李 東碩
	教養教育研究開発プロジェクト	青木 利夫

教育領域委員会

委員長	副学部長（学士課程教育担当）	船瀬 広三
副委員長	人間探究領域 教育領域主任	坂田 省吾
副委員長	自然探究領域 教育領域主任	古川 康雄
副委員長	社会探究領域 教育領域主任	丸田 孝志
委員	人間探究領域	長谷川 博
	人間探究領域	大島 徹也
	人間探究領域	町田 章
	自然探究領域	小野寺 真一
	自然探究領域	阿部 誠
	自然探究領域	田口 健
	社会探究領域	市川 浩
	社会探究領域	布川 弘
	社会探究領域	匹田 篤

学部入学試験委員会

委員長		平手 友彦
委員	人間探究領域	木庭 康樹
	人間探究領域	杉浦 義典
	人間探究領域	大嶋 広美
	自然探究領域	和崎 淳
	自然探究領域	飯間 信
	自然探究領域	佐藤 明子
	社会探究領域	フンク、カロリン・E. H.
	社会探究領域	山崎 修嗣
	社会探究領域	大池 真知子

学部入学試験合格者判定委員会

委員長	学部長	岩永 誠
委員	副学部長（学士課程教育担当）	船瀬 広三
	入学試験委員会委員長	平手 友彦

学部卒業生判定委員会

委員長	学部長	岩永 誠
委員	副学部長（学士課程教育担当）	船瀬 広三
	人間探究領域 教育領域主任	坂田 省吾
	自然探究領域 教育領域主任	古川 康雄
	社会探究領域 教育領域主任	丸田 孝志

放射性同位元素委員会

委員長	放射線取扱主任者	山崎 岳
委員	副研究科長（学術・社会連携担当）	山崎 岳
	行動科学講座 （放射線取扱副主任者）	石原 康宏
	環境自然科学講座 （放射線取扱主任者）	梶原 行夫
	放射線障害防止管理者	山崎 護

安全衛生委員会

委員長	安全衛生責任者（研究科長）	岩永 誠
委員	衛生管理者	行動科学 和田 正信
委員	衛生管理者	行動科学 根平 達夫
委員	衛生管理者	人間文化研究 柴田 美紀
委員	衛生管理者	環境自然科学 田口 健
委員	衛生管理者	環境自然科学 山田 俊弘
委員	衛生管理者	社会文明研究 河本 尚枝
委員	衛生管理者	地域研究 的場 いづみ
委員	衛生管理者	（数理）森本 康彦
委員	内規 第3条（4）	生物圏科学研究科 竹田 一彦
委員	内規 第3条（4）	外国語教育研究センター 上西 幸治
委員	内規 第3条（4）	教養教育本部 渡部 淳
	衛生主任者・安全主任者	坂田 省吾
	衛生主任者・安全主任者	安仁屋 宗正
	衛生主任者・安全主任者	乾 雅 祝
	衛生主任者・安全主任者	材木 和雄
	衛生主任者・安全主任者	布川 弘

研究科代議員会

研究科長	岩 永 誠
副研究科長 (学術・社会連携担当)	山 崎 岳
副研究科長 (大学院課程教育担当)	長 田 浩 彰
副研究科長 (学士課程教育担当)	船 瀬 広 三
副研究科長 (総務担当)	山 崎 護
研究科長補佐 (評価担当)	関 矢 寛 史
研究科長補佐 (高大連携担当)	荻 田 典 男
人間科学部門長	井 上 永 幸
環境科学部門長	奥 田 敏 統
文明科学部門長	要 田 圭 治
行動科学講座主任	和 田 正 信
人間文化研究講座主任	青 木 孝 夫
環境自然科学講座主任	海 堀 正 博
情報システム研究講座主任	西 村 浩 二
社会文明研究講座主任	吉 村 慎 太 郎
地域研究講座主任	水 羽 信 男
21世紀科学プロジェクト委員会委員長	小 野 寺 真 一
広報・出版委員会委員長	辻 学

人事特別委員会

委員長	副研究科長 (学術・社会連携担当)	山 崎 岳
委員	副研究科長 (総務担当)	山 崎 護
	教務委員会委員長	長 田 浩 彰
	教育領域委員会委員長	船 瀬 広 三
	教授会選出	久 我 ゆ かり
	教授会選出	坂 田 省 吾
	教授会選出	布 川 弘
	教授会選出	吉 田 光 演
	副研究科長が必要と認めた者	吉 村 慎 太 郎

人事交流委員会

委員長	研究科長	岩 永 誠
委員	副研究科長 (学術・社会連携担当)	山 崎 岳
	副研究科長 (大学院課程教育担当)	長 田 浩 彰
	副研究科長 (学士課程教育担当)	船 瀬 広 三
	副研究科長 (総務担当)	山 崎 護
	人事特別委員会委員	久 我 ゆ かり
	人事特別委員会委員	坂 田 省 吾
	人事特別委員会委員	布 川 弘
	人事特別委員会委員	吉 田 光 演
	人事特別委員会委員	吉 村 慎 太 郎

評価委員会

委員長	研究科長補佐 (評価担当)	関 矢 寛 史
委員	副研究科長 (総務担当)	山 崎 護
	人間科学部門長	井 上 永 幸
	環境科学部門長	奥 田 敏 統
	文明科学部門長	要 田 圭 治
	人間科学部門	和 田 正 信
	環境科学部門 (兼任)	奥 田 敏 統
	文明科学部門	シユワルフ ハンス ミツヤエル
	教務委員会選出	浴 野 稔 一
	21世紀科学プロジェクト委員会選出	浅 野 敏 久
	教育領域委員会選出	長 谷 川 博

将来計画委員会

委員長		浅 野 敏 久
委員	副研究科長 (学術・社会連携担当)	山 崎 岳
	内規 第3条 (2)	小 野 寺 真 一
	評価委員会委員長	関 矢 寛 史
	内規 第3条 (4)	荻 田 典 男

企画専門部会

部会長	将来計画委員会委員長	浅 野 敏 久
	内規 第7条第2項 (2)	荒 見 泰 史
	内規 第7条第2項 (2)	海 堀 正 博
	内規 第7条第2項 (2)	戸 田 昭 彦
	内規 第7条第2項 (2)	布 川 弘

ワーキンググループ

	内規 第8条	青 木 利 夫
	内規 第8条	石 田 敦 彦
	内規 第8条	長 谷 川 博
	内規 第8条	丸 田 孝 志
	内規 第8条	大 島 徹 也
	内規 第8条	小 川 景 子
	内規 第8条	佐 々 木 宏
	内規 第8条	柴 田 美 紀
	内規 第8条	田 口 健
	内規 第8条	長 坂 格
	内規 第8条	並 木 敦 子
	内規 第8条	根 平 達 夫
	内規 第8条	匹 田 篤
	内規 第8条	町 田 章
	内規 第8条	的 場 い づ み
	内規 第8条	宗 尻 修 治
	内規 第8条	山 田 俊 弘
	内規 第8条	タフナー ロバート ホーネ

財務委員会

委員長	齋藤 祐見子
委員	副研究科長（学術・社会連携担当） 山崎 岳
	行動科学講座 和田 正信
	人間文化研究講座 青木 孝夫
	環境自然科学講座 乾 雅祝
	社会文明研究講座 材木 和雄
	地域研究講座 布川 弘

広報・出版委員会

委員長	辻 学
委員	人間科学部門 杉浦 義典
	人間科学部門 眞嶋 俊造
	人間科学部門 進矢 正宏
	環境科学部門 石坂 智
	環境科学部門 福田 恵
	環境科学部門 鈴木 俊哉
	文明科学部門 崔 真碩
	文明科学部門 的場 いづみ
	文明科学部門 柳瀬 善治
	研究科長が必要と認めた者 匹田 篤
	研究科長が必要と認めた者 田中 晋平

教務委員会

委員長	副研究科長（大学院課程教育担当）	長田 浩彰
委員	人間科学部門長	井上 永幸
	環境科学部門長	奥田 敏統
	文明科学部門長	要田 圭治
	生命科学研究領域主任	彦坂 暁
	人間行動研究領域主任	坂田 桐子
副委員長	身体運動科学研究領域主任	和田 正信
	言語研究領域主任	クレントン ジョン
	人間存在研究領域主任	桑島 秀樹
	自然環境研究領域主任	久我 ゆかり
	総合物理研究領域主任	浴野 稔一
	情報システム環境研究領域主任	稲垣 知宏
	社会環境研究領域主任	山崎 修嗣
	文明史基礎研究領域主任	杉木 恒彦
	地域研究領域主任	田中 暁
	21世紀科学プロジェクト委員会委員長	小野寺 真一

国際交流委員会

委員長	井口 容子
委員	短期留学交流部会委員 丸田 孝志
	教務委員会選出 杉木 恒彦
	教務委員会選出 彦坂 暁
	教育領域委員会選出 田口 健
	教育領域委員会選出 崔 真碩
	留学生担当教員 河本 尚枝

研究科入学試験委員会

委員長	青木 利夫
委員	生命科学研究領域 石田 敦彦
	人間行動研究領域 林 光緒
	身体運動科学研究領域 進矢 正宏
	言語研究領域 石川 雅隆
	人間存在研究領域 宮園 健吾
	自然環境研究領域 ヴィレヌーヴ 真澄美
	総合物理研究領域（兼任） 田中 晋平
	情報システム環境研究領域 近堂 徹
	社会環境研究領域 福田 恵
	文明史基礎研究領域 佐野 眞理子
	地域研究領域 崔 真碩
	21世紀プロジェクト委員会選出 田中 晋平

研究科入学試験合格者判定委員会

委員長	研究科長	岩永 誠
委員	副研究科長（大学院課程教育担当）	長田 浩彰
	人間科学部門長	井上 永幸
	環境科学部門長	奥田 敏統
	文明科学部門長	要田 圭治
	入学試験委員会委員	

21世紀科学プロジェクト委員会

委員長	小野寺 真一
委員	教務委員会委員長 長田 浩彰
	言語と情報研究プロジェクト 町田 章
	文明と自然研究プロジェクト 浅野 敏久
	リスク研究プロジェクト 海堀 正博
	資源エネルギー研究プロジェクト（兼任） 小野寺 真一
	要素－システム研究プロジェクト 田中 晋平
	ヒロシマの形成プロジェクト 布川 弘
	環境平和学プロジェクト 杉木 恒彦
	ヒロシマ韓国学プロジェクト 李 東碩
	教養教育研究開発プロジェクト 青木 利夫

研究倫理委員会

委員長	東谷 誠二
委員	人間科学部門長 井上 永幸
	環境科学部門長 奥田 敏統
	文明科学部門長 要田 圭治
	人間科学部門 小川 景子
	環境科学部門 畠中 憲之
	文明科学部門 市川 浩

教育領域委員会

委員長	副学部長 (学士課程教育担当)	船瀬 広三
副委員長	人間探究領域 教育領域主任	坂田 省吾
副委員長	自然探究領域 教育領域主任	阿部 誠
副委員長	社会探究領域 教育領域主任	布川 弘
委員	人間探究領域	長谷川 博
	人間探究領域	大島 徹也
	人間探究領域	町田 章
	自然探究領域	竹田 一彦
	自然探究領域	古川 康雄
	自然探究領域	田口 健
	社会探究領域	市川 浩
	社会探究領域	崔 真碩
	社会探究領域	浅野 敏久

学部入学試験委員会

委員長	平手 友彦
委員	人間探究領域
	人間探究領域
	人間探究領域
	自然探究領域
	自然探究領域
	自然探究領域
	社会探究領域
	社会探究領域
	社会探究領域
	フランク・カロリン・E・H.
	薩摩 真介
	城戸 光世
	新学科設置準備委員会委員
	ヴィレヌーヴ 真澄美

学部入学試験合格者判定委員会

委員長	学部長	岩永 誠
委員	副学部長 (学士課程教育担当)	船瀬 広三
	入学試験委員会委員長	平手 友彦
	新学科設置準備委員会委員長	フランク・カロリン・E・H.

学部卒業生判定委員会

委員長	学部長	岩永 誠
委員	副学部長 (学士課程教育担当)	船瀬 広三
	人間探究領域 教育領域主任	坂田 省吾
	自然探究領域 教育領域主任	阿部 誠
	社会探究領域 教育領域主任	布川 弘

放射性同位元素委員会

委員長	放射線取扱主任者	山崎 岳
委員	副研究科長 (学術・社会連携担当) (兼任)	山崎 岳
	行動科学講座 (放射線取扱副主任者) (兼任)	山崎 岳
	環境自然科学講座 (放射線取扱主任者)	梶原 行夫
	放射線障害防止管理者	山崎 護

安全衛生委員会

委員長	安全衛生責任者 (研究科長)	岩永 誠
委員	衛生管理者	行動科学 和田 正信
委員	衛生管理者	行動科学 根平 達夫
委員	衛生管理者	人間文化研究 町田 章
委員	衛生管理者	環境自然科学 田口 健
委員	衛生管理者	環境自然科学 山本 俊弘
委員	衛生管理者	社会文明研究 河田 尚枝
委員	衛生管理者	地域研究 的場 いづみ
委員	衛生管理者	(数理) 森本 康彦
委員	内規 第3条 (4)	生物圏 竹田 一彦
委員	内規 第3条 (4)	外教研 上西 幸治
委員	内規 第3条 (4)	教育室 柳本 考二

新学科設置準備委員会

委員長	細則 第2条 (2)	フランク・カロリン・E・H
副委員長	細則 第2条 (1)	山崎 岳
	細則 第2条 (3)	高谷 紀夫
	細則 第2条 (3)	河本 尚枝
	細則 第2条 (3)	柴田 美紀
	細則 第2条 (3)	田中 晋平
	細則 第2条 (3)	タフナー ロバート ホースト
	細則 第2条 (3)	トレンゾン スティーブン
	細則 第2条 (3)	町田 章
	細則 第2条 (3)	ヴィレヌーヴ 真澄美
	細則 第2条 (3)	匹田 篤
	細則 第2条 (3)	山田 俊弘
	細則 第2条 (4)	外教研 達川 奎三
副委員長	細則 第2条 (4)	国際研 片柳 真理
	細則 第2条 (4)	国際研 金子 慎治
	細則 第2条 (4)	国際研 関 恒樹
	細則 第2条 (4)	国際研 山根 達郎

大学院再編検討WG 研究科内WG

委員長	全学委員	岩 永 誠
	全学委員	辻 学
	全学委員	戸 田 昭彦
	全学委員	山 崎 岳
		和 田 正信
		久我 ゆかり
		長 田 浩彰
		杉 木 恒彦

研究科長候補者選考管理委員会

委員長	人間文化研究講座	青 木 孝 夫
	行動科学講座	和 田 正 信
	環境自然科学講座	久我 ゆかり
	社会文明研究講座	材 木 和 雄
	地域研究講座	水 羽 信 男

表5-2-2 予算および決算

(単位：千円)

事項等		29年度			28年度			27年度			
		予算額	決算額	残額	予算額	決算額	残額	予算額	決算額	残額	
教員・講座等への配分予算	教育研究経費	基盤経費	107,808	90,291	17,517	99,320	89,200	10,120	134,285	133,493	792
		特別経費(脳科学研究)	/	/	/	/	/	/	4,350	4,350	0
		21世紀科学プロジェクト	4,610	4,025	585	4,750	3,970	780	3,700	3,602	98
		総合科学推進プロジェクト	2,429	2,412	17	4,404	4,255	149	7,187	6,798	389
		学生独自プロジェクト(*1)	1,485	1,439	46	1,100	1,100	0	/	/	/
	(小計)	116,332	98,167	18,165	109,574	98,525	11,049	149,522	148,243	1,279	
計		116,332	98,167	18,165	109,574	98,525	11,049	149,522	148,243	1,279	
学部・研究科共通予算	各種委員会等経費	安全衛生委員会	176	344	△ 168	181	247	△ 66	225	186	39
		放射性同位元素委員会	1,405	1,472	△ 67	1,441	1,429	12	1,486	1,477	9
		広報・出版委員会	4,767	3,139	1,628	4,776	4,526	250	5,120	6,007	△ 887
		評価委員会	32	36	△ 4	33	0	33	294	34	260
		教育領域委員会 (学部教務委員会)	2,352	2,081	271	2,195	1,778	417	2,196	2,112	84
		教務委員会 (研究科教務委員会)	643	451	192	659	653	6	313	406	△ 93
		研究科入試委員会	662	623	39	679	686	△ 7	699	696	3
		学部入試委員会	440	525	△ 85	456	553	△ 97	413	606	△ 193
		(学長裁量経費) 国際共創学科設立	6,217	6,217	0	/	/	/	/	/	/
		文理融合型リサーチマネージャー養成事業	/	/	/	/	/	/	3,366	3,262	104
		教員免許状更新講習経費	47	49	△ 2	47	48	△ 1	25	25	0
	(小計)	16,741	14,937	1,804	10,467	9,920	547	14,137	14,811	△ 674	
	研究科長配分予算	研究科長裁量経費等	36,477	10,748	25,729	23,724	11,393	12,331	8,667	8,467	200
		非常勤講師, TA, RA等(*2)	21,145	19,742	1,403	18,713	17,844	869	13,099	12,890	209
	(小計)	57,622	30,490	27,132	42,437	29,237	13,200	21,766	21,357	409	
支援室配分予算	管理的経費	6,519	8,123	△ 1,604	6,686	9,041	△ 2,355	6,857	9,353	△ 2,496	
	(小計)	6,519	8,123	△ 1,604	6,686	9,041	△ 2,355	6,857	9,353	△ 2,496	
計		80,882	53,550	27,332	59,590	48,198	11,392	42,760	45,521	△ 2,761	
全学共通経費(光熱水料メンテナンス分)		48,445	43,513	4,932	51,265	41,327	9,938	45,806	42,313	3,493	
総計		245,659	195,230	50,429	220,429	188,050	32,379	238,088	236,077	2,011	

*1：平成27年度の学生独自プロジェクトは、文理融合型リサーチマネージャー養成事業経費で実施。

*2：平成27年度は、非常勤講師, TA, RAに係る人件費のみ計上。平成28年度以降は、共通経費で雇用した研究員, 教務補佐員等の人件費を含む。

表5-2-3 役職員・部門長・講座主任など一覧

役職員（平成27年度～29年度）

役職名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
研究科長・学部長	吉田 光演	岩永 誠	岩永 誠
副研究科長（学術・社会連携担当）・評議員	岩永 誠	山崎 岳	山崎 岳
副研究科長（大学院課程教育担当）	山崎 岳	長田 浩彰	長田 浩彰
副研究科長・副学部長（学士課程教育担当）	吉村 慎太郎	船瀬 広三	船瀬 広三
副研究科長（総務担当）	山崎 護	山崎 護	山崎 護
研究科長補佐・学部長補佐（教養教育担当）	乾 雅祝	戸田 昭彦	—
研究科長補佐・学部長補佐（評価担当）	古川 康雄	関矢 寛史	関矢 寛史
研究科長補佐・学部長補佐（高大連携担当）	荻田 典男	荻田 典男	荻田 典男
研究科長特別補佐（国際交流担当）	—	荒見 泰史	荒見 泰史
研究科長特別補佐（国際交流担当）	—	桑島 秀樹	桑島 秀樹
研究科長特別補佐（IGS担当）	—	—	フク, カリン・E. H.

部門長（平成27年度～29年度）

役職名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人間科学部門	坂田 省吾	井上 永幸	井上 永幸
環境科学部門	浅野 敏久	浅野 敏久	奥田 敏統
文明科学部門	高谷 紀夫	要田 圭治	要田 圭治

講座主任（平成27年度～29年度）

役職名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
行動科学講座	坂田 桐子	和田 正信	和田 正信
人間文化研究講座	井上 永幸	青木 孝夫	青木 孝夫
環境自然科学講座	戸田 昭彦	海堀 正博	海堀 正博
社会文明研究講座	材木 和雄	吉村 慎太郎	吉村 慎太郎
地域研究講座	要田 圭治	水羽 信男	水羽 信男
情報システム研究講座	相原 玲二	西村 浩二	西村 浩二

領域主任（平成27年度～29年度）

役職名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生命科学研究領域	斎藤 祐見子	斎藤 祐見子	彦坂 暁
人間行動研究領域	坂田 桐子	坂田 桐子	坂田 桐子
身体運動科学研究領域	山崎 昌廣	和田 正信	和田 正信
言語研究領域	柴田 美紀	柴田 美紀	クレントン ジョン
人間存在研究領域	桑島 秀樹	桑島 秀樹	桑島 秀樹
自然環境研究領域	佐藤 高晴	山田 俊弘	久我 ゆかり
総合物理研究領域	田口 健	浴野 稔一	浴野 稔一
情報システム環境研究領域	児玉 明	児玉 明	稲垣 知宏
社会環境研究領域	フク, カリン・E. H.	山崎 修嗣	山崎 修嗣
文明史基礎研究領域	シュールブ, ハンス ミヒヤエル	シュールブ, ハンス ミヒヤエル	杉木 恒彦
地域研究領域	佐竹 昭	田中 暁	田中 暁

表5-2-4 審議機関

大学院総合科学研究科（平成27年度～平成29年度）

名称	審議事項	構成員	議長	開催回数		
				平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
研究科長 室会議	(1)長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項 (2)教授会等の審議に関する事項 (3)教育活動、研究活動及び社会貢献活動に関する事項 (4)国際交流に関する事項 (5)人的資源、物的資源及び財的資源の活用に関する事項 (6)規則等の制定及び改廃に関する事項 (7)危機管理及び安全衛生管理に関する事項 (8)情報ネットワーク及び情報セキュリティーに関する事項 (9)教育研究活動等の点検・評価・改善及び公表に関する事項 (10)広報及び構成員の意見聴取に関する事項 (11)その他研究科長室の目的を達成するために必要な事項	研究科長 副研究科長 研究科長補佐 研究科長特別補佐 その他必要と認める者	研究科長	48回	49回	47回
研究科 教授会	(1)研究科における研究及び社会貢献活動に関する事項 イ 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における研究及び社会貢献活動に関する事項 ロ 教員選考における教育研究及び社会貢献に係る業績審査に関する事項 ハ 研究活動に関する事項 ニ 社会貢献活動に関する事項 ホ 教育研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項 ヘ その他研究科長が必要と認めた教育研究及び社会貢献に関する事項 (2) 研究科における教育に関する事項 イ 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育に関する事項 ロ 教員の教育担当に関する事項 ハ 学生の受入れ及び身分に関する事項 ニ 学位の授与に関する事項 ホ 教育課程に関する事項 ヘ 教育に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項 ト その他研究科長が必要と認めた教育に関する事項	研究科長 副研究科長 研究科長補佐 研究科専任の教授 情報メディア教育研究センター又は外国語教育研究センターに配属の研究科担当教授 その他必要と認める者	研究科長	16回	13回	14回
研究科 代議員会	(1)長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育、研究及び社会貢献活動に関する事項 (2)教員の教育担当に関する事項 (3)学生の受入れ及び身分に関する事項(学生の入学、懲戒及び除籍に関する事項を除く。) (4)教育課程に関する事項 (5)研究活動に関する事項 (6)社会貢献活動に関する事項 (7)教育研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項 (8)その他教授会から付託された事項	研究科長 副研究科長 研究科長補佐 部門長 講座主任 21世紀科学プロジェクト委員会委員長 広報・出版委員会委員長 その他必要と認める者	研究科長	13回	11回	11回
学部 教授会	(1)長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育に関する事項 (2)教員の教育担当に関する事項 (3)学生の受入れ及び身分に関する事項 (4)学位の授与に関する事項 (5)教育課程に関する事項 (6)教育に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項 (7)その他学部長が必要と認めた教育に関する事項	学部長 副学部長 学部長補佐 学部担当教授 その他必要と認める者	研究科長	7回	8回	8回

表5-2-5 総合科学研究科・総合科学部FD実施状況

平成27年度

	開催日時	テーマ	参加人数	講師
第1回	7月15日(水) 13:30~14:50	協同による活動性の高い授業づくり	52人	安永 悟 (久留米大学文学部心理学教授、初年度教育学会会長、日本協同教育学会理事)
第2回	10月21日(水) 14:30~15:00	アクティブラーニング説明会	63人	古澤 修一 (広島大学FD部会委員)
第3回	1月20日(水) 14:00~15:00	大学院生・留学生等の指導におけるハラスメント	77人	横山 美栄子 (ハラスメント相談室長)
第4回	3月3日(木) 14:00~15:00	総合科学推進プロジェクト研究成果発表	92人	
		遺伝子資源の活用に向けたタンパク質輸送機構の解明—Rab6の関わる小胞輸送段階の特定—		佐藤 明子
		本能行動の発現メカニズムに関する総合科学研究推進拠点—大学生の生活習慣及び科学リテラシーの確立へ向けて—		浮穴 和義
		脳内性ステロイドのサーカディアンリズム		山崎 岳
		大規模津波の上水道水水源と生活用水への影響評価と復旧アルゴリズムの試験的構築		開発 一郎
		生成消滅する境界の総合科学的考察		乾 雅祝

平成28年度

	開催日時	テーマ	参加人数	講師
第1回	2月15日(水) 15:00~15:30	平成30年度教養教育改革について	91人	林 光緒 (副理事(教育企画担当))
第2回	2月22日(水) 15:00~16:00	セクシャル・マイノリティについて	37人	北仲 千里 (ハラスメント相談室 准教授)
第3回	3月3日(金) 13:45~14:45	総合科学推進プロジェクト研究成果発表	64人	
		地方国立大学総合系学部卒業生のライフコースと生活・意識～広島大学総合科学部卒業生を対象として～		西村 雄郎
		産学官連携によるコンディショニング及びリカバリー戦略の検討と普及		長谷川 博
		肥満・ストレスの脳内メカニズムを探る—神経細胞の環境センサーからのアプローチ		斎藤 祐見子
		階層的構造における界面に対する層(相)の特性の影響		ヴィレヌーヴ 真澄美
		分光法による生物複雑系解析		久我 ゆかり
		脳内ステロイドホルモンのサーカディアンリズム		山崎 岳
		都市—農村連関問題の流域環境平和学的解析		小野寺 真一

平成29年度

	開催日時	テーマ	参加人数	講師
第1回	4月19日(水) 15:00~15:30	サバティカル研修報告	97人	小澤 久 李 東碩
第2回	6月10日(土) 10:00~17:50	教養教育の再考	30人	近藤 孝弘 (早稲田大学) 高橋 哲也 (大阪府立大学) 布川 弘 羽田 貴史 (東北大学) 於保 幸正 (広島大学名誉教授)
第3回	6月21日(水) 15:00~16:00	発達障害の特性を持つ学生の理解と支援	91人	石附 智奈美 (医歯薬保健学研究科講師)
第4回	11月13日(月) 16:10~18:00	アメリカの大学における教養教育—現状と課題—	20人	スーザン・アルパティーン (大阪大学高等教育・入試開発センター特任教授)
第5回	2月17日(土) 14:00~17:00	自由・競争・参加—大学改革からの問題提起—	18人	渡邊 浩一 (大阪経済法科大学) 石原 俊 (明治学院大学) 山口 裕之 (徳島大学) 井上 義和 (帝京大学)